



血清サイトカインの解析を行った、神経 Sweet 病の症例報告

☆推薦文☆

日下先生、大分県から自治医科大学附属病院に後期研修にきた際の受け持ち症例が初めての英語論文としてアクセプトされおめでとうございます。たった一つの症例報告を仕上げるのにも、多くの方々からご指導、ご協力頂きました。皆様への感謝の気持ちを忘れないでください。現在は地域の患者様を診療し充実した日々を過ごしておりますが、貴重な臨床経験を英語論文として残すことは、臨床医の価値ある仕事です。今後、臨床と学術活動での益々のご活躍を期待しております。

地域臨床教育センター 佐藤健夫

先生が、義務年限中の2年間、アレルギー・リウマチ科で後期研修した証が、格式あるBMJのCase Report誌にアクセプトされ、先生と私が一緒に仕事をした思い出とともにPubMedに恒久に残ります。私がほんのわずかですが先生との思い出の論文に関わりましたことを光栄に感じています。先生は本論文以外にも、積極的に海外の学会にも参加されましたね。先生が将来、大分県のリウマチ膠原病診療の要になると信じて疑いません。

内科学講座アレルギー・膠原病学部門 永谷 勝也

姫島村国民健康保険診療所 日下 寛惟(大分 35 期)

大分県35期卒業の日下寛惟と申します。現在、私は大分県内の姫島村国民健康保険診療所という有床診療所の副所長として地域医療に従事しておりますが、2016、2017年度の2年間は本学のアレルギー・リウマチ科で研修させていただきました。このたび、指導医先生方のご指導の下で執筆しました症例報告「Increase of a wide range of bioactive substances in an active phase of neuro-Sweet disease」¹⁾が、BMJ Case Reportsに掲載されることになりました。この場をお借りしまして、ご報告とお礼を述べさせていただきます。



Sweet病は、発熱、有痛性隆起性紅斑などを特徴とする広義の自己炎症性疾患ですが、時に髄膜脳炎などの中枢神経病変を呈することがあり、神経Sweet病 (Neuro-Sweet disease : NSD) と称されます。NSDは日本で初めて提唱された疾患概念で、過去の69症例のうちアジア人、特に日本人での報告が56症例と大多数を占めていますが、私が検索し得た限りでは脳神経内科医からの報告が比較的多いことから、一般内科医のみならず、リウマチ・膠原病内科医にとってもかなり珍しい疾患と推察されます。

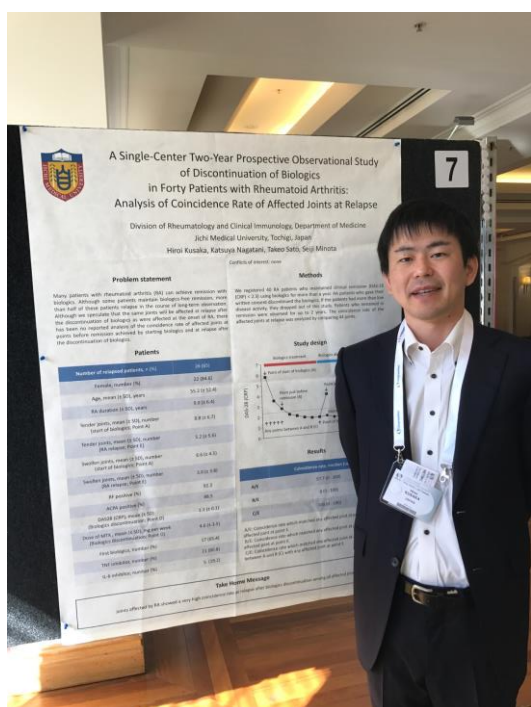
神経Behçet病 (Neuro-Behçet disease : NBD) は、NSDと同じく好中球の活性化が病態に関与している類縁疾患ですが、両者は治療反応性や予後が異なるために鑑別は重要です。詳述は割愛させていただきますが、本症例においても当初はNBDを疑い暫定的に治療を開始したものの、治療後に判明した病理所見やHLAタイピングなどから、最終的にNSDと診断した経緯があります。

NSDの病態には好中球のみならず種々の炎症性サイトカインが関与していると考えられており、今回の症例報告では、本症例の発症時と寛解時、ならびに健常対照者における27種類のサイトカイン血清濃度を測定しました。この点につきましても詳細は本論文を参照していただきたいのですが、本症例では過去の報告と同様のケモカイン上昇を認めている一方で、Th1サイトカインの優位な上昇は認めません

でした。現在、NSDの治療はステロイドの全身投与が中心ですが、個々の症例に応じた分子標的治療に向けて、更なるNSDのサイトカイン・プロファイル解析の蓄積が望まれます。

今回の貴重な症例は2017年に経験しましたが、論文の構想、作成、そして投稿、掲載に至るまでにこれ程長期間を要したのは、偏に私の不徳の致すところでございます。研修時代からの指導医でありCRSTメンバーでもある佐藤健夫先生、永谷勝也先生には、私が出身県に戻った後もメールできめ細やかなやり取りや、時には学会等でお会いした際に直接、根気強く丁寧にご指導いただきました。その他、当時のアレルギー・リウマチ科教授である簗田先生、転科前の診療情報をご提供くださった総合診療内科の先生方、症例の学会発表や論文化に快く同意してくださった患者さん、そしてこのようなご報告の機会を設けてくださった亀崎先生など、関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

- 1) Kusaka H, Nagatani K, Sato T, Minota S. Increase of a wide range of bioactive substances in an active phase of neuro-Sweet disease. BMJ Case Rep. 2020 Apr 8;13(4). pii: e233457.



関節リウマチに関する臨床研究を海外の学会で発表
World Congress of Bone, Muscle and Joint Diseases (BMJD) 2017

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>